

# 外来化学療法部

## ■ スタッフ

部長	齋藤 佳菜子
副部長	都丸 敦史、北嶋 貴仁
看護師	石井 美紀
薬剤師	石橋 美紀、山田 真帆

## ■ 診療科の特色・診療対象疾患

### 1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVR 的治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life : QOL）の観点から外来治療として実施されています。このような背景から、2015年5月に開設された新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

### 2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌、頭頸部癌など）に対する化学療法、分子標的治療、免疫療法
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

## ■ 診療体制と実績

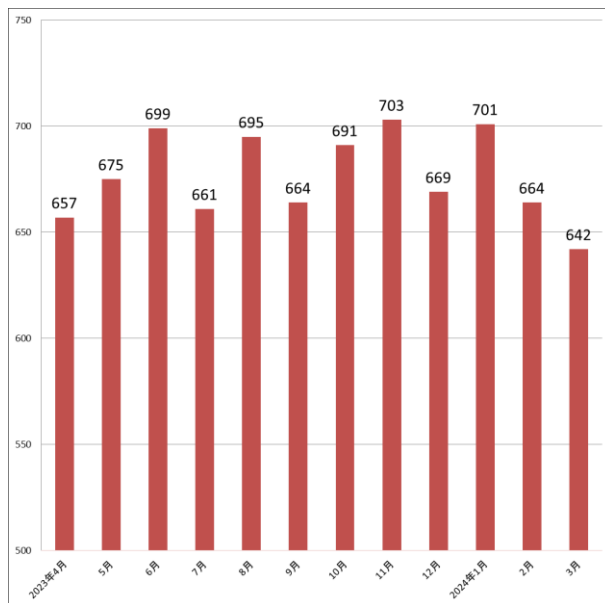
診療体制が整備された2016年以降は、地域がん拠点病院の一部門として、より高度で専門的な役割を果たせるよう、新たな取り組みを開始しました。

臨床試験・治験の外来治療の体制整備もその一つになります。治験などの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベット・指示簿等の整備、

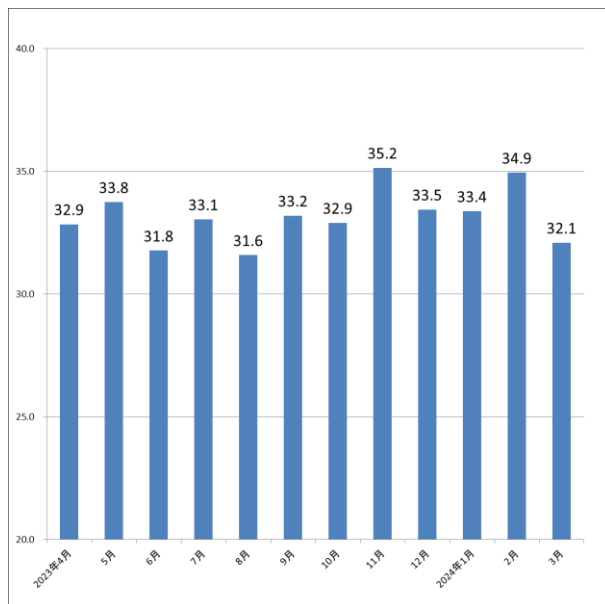
治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2023年4月から2024年3月までの診療実績を以下に示します。（外来腫瘍化学療法診療料イ・外来化学療法加算件数）

- 年間の件数 8121件（前年度より+200件）
- 月別の治療実施件数 1カ月平均672件（前年度より+12件）



- 1日平均月別件数 平均33.1件（前年度より+0.5件）



- 診療科別の実施件数  
腫瘍内科、消化管外科、肝胆膵外科、消化器内科、呼吸器内科、腎泌尿器科、血液内科、産婦人科の診療

診療科名	脳内	整形	産婦	腎泌	小児	耳頭	皮膚	脳外	消肝内	呼内	腎内	血内	腫内	消外	肝胆外	小児外	放射	リウマ	乳腺外	合計
2023年4月	2	13	33	42	3	8	0	3	76	51	1	37	175	96	92	1	0	23	1	657
5月	3	12	25	46	3	7	1	2	75	54	1	44	183	94	100	0	0	25	0	675
6月	3	12	29	45	4	9	0	1	83	53	1	30	207	105	92	1	0	24	0	699
7月	1	11	23	51	5	13	1	2	69	51	1	37	175	111	82	0	0	28	0	661
8月	5	12	28	35	5	13	0	2	96	57	1	41	180	100	88	1	3	28	0	695
9月	1	14	29	42	2	9	0	2	67	41	1	34	193	113	88	1	3	24	0	664
10月	1	14	35	36	2	14	0	3	65	43	1	32	197	122	101	0	0	25	0	691
11月	1	21	40	44	5	14	1	3	74	52	1	23	188	115	95	0	0	26	0	703
12月	0	15	47	42	1	13	1	5	69	54	1	26	180	108	82	0	0	25	0	669
2024年1月	1	17	34	36	3	12	0	4	73	59	1	32	209	108	88	1	0	23	0	701
2月	1	16	43	36	5	12	1	7	77	46	1	32	185	98	75	0	0	29	0	664
3月	0	16	29	40	1	10	0	5	64	52	1	28	192	100	79	1	0	24	0	642

科の実施件数が高くなっています。

また、関節リウマチや炎症性腸疾患の治療を担当する膠原病内科、整形外科、消化器内科の実施件数も増加しつつあります。

● 栄養管理指導

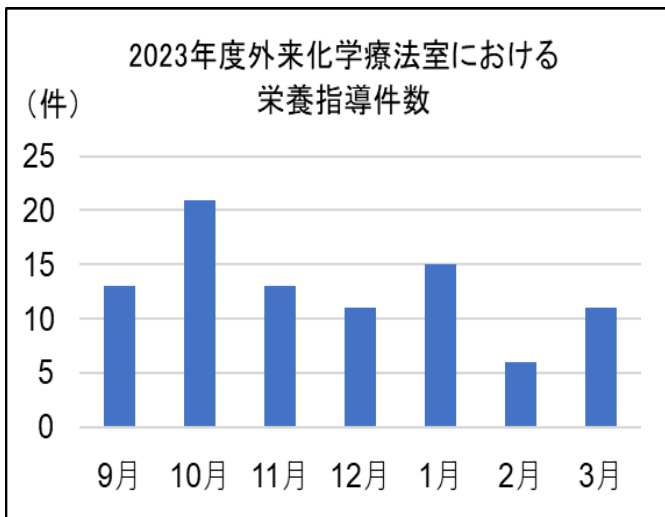
2023年9月より外来化学療法室において、化学療法時の副作用対策や栄養状態の維持を目的に栄養指導が開始となりました。主に、がん病態栄養専門管理栄養士が担当しており、食事摂取量の評価や副作用時のメニューの提案などを行っています。また、栄養指導時に Inbody による体組成測定も実施し評価を行っています。

どを薬剤師、看護師が説明し、患者さんによっては内服中の副作用モニタリングも行います。また高額な分子標的治療薬については MSW の介入により治療費に関するサポートも行っていきます。毎日、午後2時から一人30分で最大4名まで対応できるようにしています。

■ 臨床研究等の実績

- 外来化学療法セミナー  
2023年度は実施しておりません。

[https://www.hosp.mie-u.ac.jp/bumon/gairai\\_kagaku/](https://www.hosp.mie-u.ac.jp/bumon/gairai_kagaku/)



2023年度は7か月で計90件の栄養指導を行いました。

● 経口抗がん薬サポートチーム

2020年度から「経口抗がん薬サポートチーム」の運用を本格的に開始しました。具体的な診療内容は、経口抗がん薬特有の副作用や日々のケアの注意点な